



アニメ改変案集2

おだまきかこ

アニメ改変案集2

はじめに

アニメ改編案集の第二集です。以前のものからまたいろいろ考えた案を抜書きしました。ふつつかながらこういう作業が、二次創作の実作品にいい影響を与えてくれればと思います。

2008年8月

おだまきかこ

目次

ガンダムW最終回「さまよえる流星」 1	1
ガンダムW最終回「さまよえる流星」 2	1
ガンダムW最終回「さまよえる流星」 3	2
Vガンダム最終回ハッピーエンド案1	4
Vガンダム最終回ハッピーエンド案2	5
Vガンダム最終回ハッピーエンド案3	6
Vガンダム最終回ハッピーエンド案4	7
Vガンダム最終回ハッピーエンド案5	8
Vガンダム最終回ハッピーエンド案6	9
Vガンダム最終回ハッピーエンド案7	9
Vガンダム最終回ハッピーエンド案8	10
Vガンダム最終回ハッピーエンド案9	11
となりのトトロ1	13
となりのトトロ2	14
ゲド戦記「壊れた腕輪」 1	18
ゲド戦記「壊れた腕輪」 2	18
千尋 ラストシーン	19
吉祥天女 1	22
吉祥天女 2	24
吉祥天女 3	25
吉祥天女 4	26
吉祥天女 5	27
ダブルオー第一話「俺も飛びたいよ」 1	29
ダブルオー第一話「俺も飛びたいよ」 2	30
ダブルオー第一話「俺も飛びたいよ」 3	31
ダブルオー第一話「俺も飛びたいよ」 4	32

ダブルオー第一話「俺も飛びたいよ」5	33
毛虫のポニョ1	36
毛虫のポニョ2	37
毛虫のポニョ3	38
ゲド戦記 別案1	39
ゲド戦記 別案2	42
もののけ姫 別案1	43
もののけ姫 別案2	44
もののけ姫 別案3	46
もののけ姫 別案4	47
もののけ姫 別案5	48
サンとキキの服装について	48
ナディア改編案1	50
ナディア改編案2	51
ナディア改編案3	52
ナディア改編案4	53
ナディア改編案5	54
エヴァ終結部1	56
エヴァ終結部2	56
エヴァ終結部3	57
エヴァ終結部4	57
エヴァ終結部5	58
コードギアス二期改編案1	59
コードギアス二期改編案2	61
コードギアス二期改編案3	62

ガンダムW最終回「さまよえる流星」1

月の軌道を離れて、ミリアルドの手によって、通称「風見鶏」のコロニーが今地球に落ちようとしていた。コロニーはミリアルドの温情によって、住民の大半は退去していたのだが、残っている住民もいた。コロニーが地球に落ちた場合を推測する、ホワイトファンクの面々。8枚羽がついたまま地球に落ちた場合、被害は甚大である。しかもミリアルドたちは、コロニーにある方向から一斉射撃を加え、コロニーをゆっくりと回転させはじめていた。

サリィ「回転したまま落ちた場合どうなるの？」

博士X「被害は静止した状態の場合とは比べ物にならない。船についているスクリュウのノズルがあるじゃろうが？あんな感じで地球に大質量のものが回転しながら激突するんじゃ。地軸はずれ、大陸は大地震が起こるかも知れん。もちろん、どこに落ちてても大火災はまぬがれんじゃろう。」

サリィ「そんな。」

博士「ヒイロたちに行ってもらおう。コロニーはすでに高層圏に入った。大気圏に移る前に、ヒイロたちに羽部分だけでなく、本体まで解体してもらおう。」

サリィ「ガンダムでできるの？」

博士「できるできないではない。やらねばならんのじゃ。」

ガンダムW最終回「さまよえる流星」2

出撃するガンダムの5人。デュオとカトルは超長距離ミサイル弾道弾を装備している。カトルはバックアップパックを運ぶ役割である。残りの三人は、敵を散らす外野の役割である。こ

れは、三人のほうパイロットの腕前が上だと踏んだサリイの采配によるものだった。デュオはコロニーの回転軸部を狙い撃つも、全弾命中にはいならず、カトルのパックアップも敵によって阻止されてしまう。ヒイロは「配線図は頭に入っている」と言いコロニー内部に向かう。しかしそこにはミリアルドが待っていた。ミリアルドとの最後の戦い。ヒイロは「コロニーと心中する気なのか。」というが、ミリアルドは「まさかな！！おまえを待っていただけだ！！！」と言う。

いったん保存。

ミリアルドとの対決の最中、ミリアルドを止めに入るノイン。「あなたがそんなことを考えていたとはっ！！！」しかしミリアルドに「君は私のことを理解していない！！！」と退けられてしまう。自らの出生を語るミリアルド。「人はスペースノイドとして生きるべきだ。それを理解できない者には、それ相応の報いを受けてもらおう。」ヒイロ「それが貴様の狭量さだな。人はそれぞれに生きるべきだ。」ミリアルド「貴様の場合はそうだろうっっ！！」激しい2人の戦い。

ガンダムW最終回「さまよえる流星」3

コロニーの落下速度はその間も上昇を続けていた。戻ってくるノイン。

ノイン「状況はどうなっている。」

博士「今落下ポイントの予測がついた。最悪の場合、アメリカ大陸西部の穀倉地帯に到着する。」

ノイン「そんな・・・あそこには、リリーナがいる。」

博士「リリーナひとりではないぞ。」

サリィ「いやよこんなの。早く軌道修正をして。コロニーにできる限りの弾幕を張って。」

部下A「やっていますよ。しかしびくともしません。この船の装備では無理です。」

サリィ「神に祈るしかないの？」

博士「どこに落ちようが、今のままの状態では同じことじゃ。ヒイロたちは何をやっとする？伝送図はヒイロに送ったのか？」

部下A「3分前に送りました。敵のジャミングを受けていないなら、大丈夫です。」

博士「やれやれ、デュオを過信しすぎたわい。」

サリィ「あと210秒で成層圏だわ。」

部下A「落下高度1万5千！さらに速度が上昇します！」

ミリアルドはヒイロと一騎打ちをするが、機体が大破し、退けられてしまう。ミリアルド「しかし、これで私の予測通りだ・・・これでいい・・・これで・・・地球は・・・。」その瞬間、コロニーは大気圏に突入する。真っ赤になるガンダムの機体。ヒイロは苦悶しながらも、その集積回路をリセットするのに成功する。（もちろん、その周りにはミリアルドの用意したバグ・自動制御口ポットが多数取り付けられている。それをすべて破壊した後である）しかし、コロニーの羽が一斉に分解した爆風に巻き込まれてしまう。その瞬間バラバラになるガンダムの機体。ヒイロの最後のセリフ「任務完了。俺にはこれぐらいしかできなかつ・・・。」すべて言い切る前に、吹き飛んでいく。

サリィ「風見鶏が・・・落ちる・・・。」

サリィ、あきらめて祈っているポーズ。

部下A「奇跡です。大気圏の一番上で、コロニーが今分解していきますっ。」

サリィ顔をあげて「あの子がやったの?!」

部下A「しかし、ガンダムゼロが生存を確認できません。ガンダムが・・・。」

ノイン「そんな?!」

地上の写りの悪いテレビ放送で、避難民とともに中継を見ているリリーナ。アナウンサーが興奮して伝えている。「コロニーが今分解していきます。コロニーは、われわれの上には落ちません。」リリーナ「落ちたの?」リリーナの目の前で、砂漠にばらばらになって落ちる破片の映像が写る。リリーナの最後のセリフ「ヒロ・・・。」

そこで主題歌・エンディングがかぶる。

新機動戦記ガンダムWテレビ版最終話・「さまよえる流星」
・～完～

Vガンダム最終回ハッピーエンド案1

さてえーと、ハゲオヤジがまずマリアを殺して?というか、この時点ではタシロもテレビ版みたいに参加しているのかな? ま、巨悪=ハゲオヤジというわかりやすい図式で進めさせていただきます。カガチさんですが。そんでテレビ版とはちょっと変えて、ルペ・シノとピピニーデンも生きていて、この2人が手

を組んで、まずクロノクルとカテジナの邪魔をするというトーナメント戦形式でいきたいと思います。そう、ファーストとおなじく、クロノクルとカテジナはあるときからガチ党を離脱して、マリアを助けるべく動くんです。だからカテジナが残っているみたいなテレビ版とは違うのかな？ま、そんな感じですよ。しかし彼等は要のマリアを殺されてしまうんです。非常にわかりやすい話で恐縮ですが、マリアはこれからカガチが行う粛清に反発して、それに反抗するべく人々に平安の祈りの電波を与えようとする。だから「皆のもの、これから起こることに目を背け、私の声を聞きなさい」みたいな祈りをしようとする。しかし射殺されてしまうんです。ま、カガチが何か思考コントロールみたいな妨害をしてから、殺すという感じです。ま、マリアの最後のセリフは「私はそんなものはかぶらぬ！」というのが非常にいい味を出しているかも知れません。ま、ヘッドギアみたいな装置なんですがね。その巨大なの。脳の上にかぶせるんですよ。ええ……。

Vガンダム最終回ハッピーエンド案2

だからまあ、戦闘するパイロットとかはうるさいので、遮断装置のついているヘルメットをつけているんです。ま、そんな未来社会ですね。そんでさらに言いますと、ラストあたりで誰か……一般兵士でもいいですが、一人そのパイロットのヘルメットがはずれて、カガチの狂気の世界の飲み込まれてしまうという場面も考えました。聞いたとたん、「ひゃは！」って感じで。ええ。あっ、クロノクルさんじゃないです。

ええ、じい辞世の句まで考えてしまいました。

「人は生きている間に一度は、死の恐怖を味わわねばならない……！！！！」

という怨念のようなセリフです。それがまあ、やつが死んだ瞬間に宇宙全体に広がる感じですね。ああ思わずムック本開いてしまったなー。「なんでみんな寝てるんですかー！！！！」「それはあんたがバカだからー！！！！」そんなセリフが浮かぶ素敵な一枚でした。

Vガンダム最終回ハッピーエンド案3

話がなかなか前に進まないのでもういらしていると思います。それぞれ戦艦をクロノクルとカタシロは持っているみたいで、こういうのうまく動かすの苦手でねえ。ま、とにかく状況としてはじじいのカガチはマリアを射殺したあと、シャクティをひたして、後釜にして思考コントロールであやつりながら悪いことをするという予定です。で、まずカガチが「これを着てもらおう」とか言ってあのインド風の衣装を差し出す。シャクティが「母の着ていたものとは違いますね。そこに何か意味が？」って冷ややかに言うんですが、カガチが「貴様は考える必要はない。そこに立て」と言うんですよ。

まあその時は、クロノクルとウツソもその場から追い出されている。そんな感じです。で、まあカガチがシャクティに人類粛清のセリフを言わせる。で、ウツソ君ですが、ものすごく単純なドラマなんですけど、「う、ウソだ。シャクティがこんなことを言うはずがない！」みたいな感じで、クロノクルたちに自分は裏切られ続けていると思う。でまあ、モビルスーツで

戦っている時に「あなたはお姉さんのマリアさんをあやつって、死なせて、シャクティまで……！」みたいなセリフがある。でクロノクルが「はやまるな、少年！今シャクティを殺してはならない！」みたいな感じです。で、カテジナさんがサポートしている。まあナディア最終回を引き伸ばしてみたいな感じですか。ま、そんなドラマです。

Vガンダム最終回ハッピーエンド案4

うん。まずルペ・シノとピピニーデンのにわかカップルが敗退です。それでクロノクルがカガ子と対決するんですが、その時「ジン・ジャハナムの理想は間違っていた。」みたいなセリフがある。そしたらなぜかじじい最高に激怒。「ジン・ジャハナムの理想はあの時点で考えられる最高のものであった。貴様はそれをそのように言うのか！」という感じで爺いの鉄槌が下るんです。それでその時、タシロが「爺いのボルテージがいよいよ最大出力になったな。ジャハナムは黙っていないはずだ。狙うぞ。」って感じであのカイラスギリといういやらしい形の射撃砲でエンジェル・ハイロウを「おまえなんか、死んじゃえ！！」って感じで狙うんです。はいな～。ただね、私は平和路線でいきたいので、あまり最初はうまくいかず、あせったタシロはもっと近づけるって、ついには突撃になってしまうんです。まあ他の戦艦とかは沈むといいと思います。うん。

で、このじじいですが、ファナティックオヤジの名前を昨日口述しているときにはいただいたんですが、この人、「ははっ、ははっ、見ろっ、カイラスギリがわしに突撃してくるぞ！！！！これですらに多くの人々に死の恐怖を確実に味わわせ

ることができる……！！！！うっ。」って感じで死ぬんですよ。それで死後の言葉で、あのさっきのセリフがぼわぼわって宇宙放送されるんですよ。そう、カイラスギリイがかすめる形でハイロウに当たってね、やはり中にいるエスパーたちが、「こわいよママー！！！」みたいな気持ちをみんなに伝えてしまうんですよ。

Vガンダム最終回ハッピーエンド案5

当然？ですがカイラスギリイは自爆する形で、タシロの戦艦も巻き添えて死にますよ。ファラももちろんですが。で、そのカイラスギリイ突撃のときに、ウツソのおやじさんですが、この人がムック本の挿絵のこの感じで、「待ってください！タシロさん！」みたいなセリフを言う。もうこの人はほんとにいい人になっちゃってね。ほんとに普通の人なだけでいい人です。

まあ言いたくないんですが、この人技術者みたいな感じですから、おそらくエンジェル・ハイロウの研究所に働いていたんだなあ。その研究員だった人ですよ。で、システムの基礎部分の開発をした。その責任者の一人です。たぶんね。ああそうなのか……。

で、シャクティですが、やっとカガチから開放されるんですが、やはりもう死にそうな状況です。で、気丈なことになんとか念力で、人々がバラバラになってここから逃げ出したいと思っているのを、「集まりなさい！！ここに集まって！！！」って祈っている。そう、この場合はなぜかバラバラになって落ちたら死ぬという想定ですよ。そのハイロウがね。で、ハイロウがゆっくりと地球に降下をはじめます。で、ジャハナム

のまわりにいる気のいいじいさんどもが、「なんとか太平洋上に落ちそうじゃ。」「これはなんとかなるかの？」ってやってくる。ところがこの、ウツソのお父さんは、おそろくいろんなことを考えて、ぱっと席を立って、ウツソのところに行く。

Vガンダム最終回ハッピーエンド案6

まあ「三千里」のマルコのお父さんぐらいにはなんとかたどりつけたのか？そんな感じで……。なぜかウツソは出撃するのは怖いと思っている。しかしシャクティを助けたいと思って泣きそうになっている。で、このお父さんは、「今見た光景が怖いだろう？私も怖い。しかし耐えなければならない。」ってまず言う。ウツソはまだ顔をあげない。それで重ねて言うんです。「私と一緒に出撃して、シャクティを助けるんだ。」そこでウツソはなぜか飛び上がるような感じになって、「えっ、シャクティを…………でも、僕はみんなを。」って言う。お父さんは、「カガチが死んだのだから、シャクティはもう元にもどっているよ。まずおまえはたった一人を助けることを考えるんだ。」「父さん、僕は、弱虫で、いくじなしで、たくさんの人を殺してきて…………。」「もうそれ以上言うな。おまえも言うのはつらいだろう？ウツソ」って言う。そこでやっとうツソはうなずくという感じです。

さてそれでウツソはガンダムで出撃するんですが、このお父さんですが、なぜか汎用機の小型機で出撃するんです。

Vガンダム最終回ハッピーエンド案7

この時ですけど、ガンダムは装備の大半を戦闘でもうすでに

失っているんですよ。だからウツソはもう自分は戦うことができないと思っている。そんな感じです。だから基本装備に近い形ですよ。ああそうなのか……。で、ウツソはキールームに行ってシャクティを助ける。でも、不安になる。「今シャクティがいなくなって、大丈夫なのか？」とかいうセリフがあったらいいかも知れません。で、シャクティがなぜか……。まあこの子はもうテレパシストの一人なので、「お父さんが何かやっているわ。早く行きましょう。」って言う。そう、このお父さんは影のキールームに行って、自動装置みたいなものを作動させて、シャクティのルームをいなくなってから自爆させるんです。だからその巨大ヘッドギアを爆破するんですね。

ああ……。そうなんだ。うん。ま、洋画ではよくあるパターンですよ。そうそう。でまあ、その影のキールームはもちろん真ん中にはなくて、小型機でしか入れない場所にあるんです。

Vガンダム最終回ハッピーエンド案8

そりゃガ子党のカガ子がマリアから奪い取った時に、全面封鎖したからですよ。ああそうだった。まあマリアさんたちもそれなりに後ろ暗いところがあるようですね？うん。でもいい人たちなんで。はいはい。まあこのお父さんたちは補佐のコンピューターシステムみたいなつもりで作ったと思いますが、悪用する人がいるかも知れませんね。うん。ああ人工知能みたいなもの？ですね。

でまあ、SFファンが喜ぶ設定だと？ウツソの横にいるハコ

が「キタキタキタキターッ！！」とか言ってびかーと目が光って、仲間が集まってるとか喜んで、大丈夫だよ、とかウツソに言うんです。僕の仲間が集まっている？ま、そんな感じです。

で、ここですけどね。非常に悲しいことがまた最後にひとつ起こりますよ。あのね、ウツソのお父さんがハイロウから脱出しようとするんだけど、失敗した風にウツソには見えただねえ……。だから、小爆発が起こるんですが、「ああっっっ、父さんっ、父さーんっっ！！！！」って場面がある。で、そこをクロノクルとカテジナに拾われて助けられるという感じです。

で、一連の戦闘場面の最後です。ウツソは実にくやしそうな感じで、「またあなたに助けられた。」って怒ってる。で、クロノクルが「どうしたんだ。何かあったのか？」って聞く。彼としてはシャクティが助かったのだからそれでよかったという感じです。はい。で、「あなたたちのおかげで、僕は僕のお父さんまで失ったっ！！」って言う。それでさすがに悪いと思ってクロノクルが「君のお父さんが死んだのか。しかしそれでも君は強く生きていかなければならない。」って言って、ウツソが「言うなっっ！！うるさいっっ！！」って叫ぶ。ほとんどつかみかからんばかりの勢いです。

Vガンダム最終回ハッピーエンド案9

いやあの子はやさしくて、気の弱い子だから、こういう時はうつむいて黙っているんです。ただね、さすがに目が泳ぐ感じで、カテジナさんの顔をすぎるように見るんです。まあ「なん

とかして」ってやつですよ。で、カテジナさんはお姉さんですから、ウツソの前に立ってやや厳しい感じで「ウツソくん。それではいけないわ。私はあなたたちから離れて、敵として戦うことになってしまって、本当にすまなかったと思ってるわ。あの頃のあなたたちはあまりにも無力だったから……。でも、今はそうではないでしょう？あなたたちと戦った思い出、私は今でも大切に思っているわ。」って言う。そしてまあ「クロノクル、それ以上もうこの子には何も言わないであげて。彼は今とても傷ついているのよ。」って言う。でもまあ、クロノクルは去るときに背中ごしかちらっと振り向いた感じで、「シャクティを頼む」って言うんです。

まあそんな感じですね。

あとはエピローグですけど、まずはあジン・ジャハナムの一派とオデロたちも生きていて、そこはそれなりに。まあテレビ版のあの感じでまず一場面。それから、クロノクルとカテジナのなぜか夕日のバイクの場面。まずクロノクルが「後ろに乗りなよ、飛ばしやお嬢さん？」って言う。まあ手袋をはめなおしている感じ？それでカテジナのかぶっている帽子にいたずらをして、カテジナが「もう前が見えないじゃないの。」ってやや怒る。ああつばひろの帽子ですよ。実際にかぶって乗ったらおそらく飛ばされる感じのやつ。はいはい。それでバイクの二人乗りで非常に危険なんですけど、2人でセリフ。クロノクル「ウツソ君にまた怒られてしまったな。」で、カテジナがやや疲れた感じで顔をもたせて、「あの子ああいう子だから……。元気でいるといいわね。。。。。」って言う。そんな感じ

です。

それでやっと最終場面です。ウーイッグの最初の小屋が写る。ウツソとシャクティがまたそこで、カルルマンと一緒に三人で暮らしている。で、空から雪が降ってくる。「あ、雪だ。」

「ウツソ、お母さんの今年の晩成節のお墓参りはすんだ？」
「うん。お父さんのはまだなんだ。」「そうね。お父さんはきっと生きてるわ。」って空を2人で見上げる。そこでもう使われていないあのガンダムがちょっと写って、幕、です。

となりのトトロ1

うん。島田荘司先生の「夜は千の鈴を鳴らす」って作品なんだけど・・・この線路のそばに立っていて、一家連続殺人事件が起こる家ね。オチは昭和三十年代頃女の人が決死の覚悟でやっていて、今は社長になってるけど幸せじゃなかった、って作品なんだけど・・・。なんかこれね、いいかもしんない、って思ってさあ。武蔵野平野の中に、一本線路があって、そこにある白い平屋建ての家。瓦はちょっとやすっぽいカンジの光っている瓦でね。色は赤い色。うん青？そうね。そういう家は青瓦が多いんだけどもね。でね、雑木林があって、遠くに鉄塔が見えてて、郵便ポストが立っている・・・。うん。森との共生ってテーマがぜんぜんない作品になりそうなんだけどさあ。なんかこれ「霧の向こうの不思議な町」とそっくりだってカンジだし。

で、その家におばあちゃんが住んでんのかな？うーん。引っ

越してくるのかなあ。とにかく、あのサツキとメイがやって来るんですよ。東京からね。玄関のボタンをブーって押す。誰もいないねってサツキとメイが顔を見合わせてくすっと笑い合う。そこでそこで一家の新しい生活が始るって話なんだけどね。で、多分古い農家とか畑がある場所と、ちょっと田舎のアーケード街があるところと、山すそみたいところが三箇所ぐらいあって、そこをオリエンテーリングのカンジでぐるぐる回る話……。最後にパケモノたちがすずなりに乗っている列車が、線路のところを、古い蒸気機関車でポーツと走ってね、その先頭に行方不明になったメイが得意そうに乗っている。それで村人たちが、あいつらなんだーっ、て思っているところを、傘をさしてパイパーイ、ってトトロが夜の空を飛んで帰っていく。そう夜汽車ですよ。で、サツキがいたんだ、やっぱりいたんだね、って喜ぶ。そんな感じかな。

となりのトトロ2

まずおばあちゃんがいて、その人は、戦争で主人を亡くしているの。母方が父方かわかんないけど、とにかく同居している。うーん……。趣味で畑仕事していて、トマトなんか作ってる。でも農家の人じゃない。うん難しいな。どういう人なのかなあ？そんなにおばあちゃんじゃなくて、眼鏡かけてる。サツキがこれ読んで、って言うと、はいはい、なんででしょうね、って言って老眼鏡をかけかえる。そんな感じがいいと思います僕は。背はちょっと高い。腰も曲がってない。あ、ちょっと曲がりかけているほうがいいかな？うん。ものすごく曲がってないほうがいいな。

でね、その人が今日はある料理を作るんだけど、調味料切りしちゃったから、アーケード街まで買ってきておくれよ、ってサツキに言うの。買ってくるのはこれとこれ。メモに書いたから。お店はこのお店ね。って言うの。おばあちゃんはちょっと歩いていけないから。って言って、出て行くの。時間帯は昼過ぎかなあ。で、サツキとメイと二人で行くんだけど、途中寄り道しながら行くから、アーケード街についた頃には閉店頃の間になったちゃって、その上雨が降ってくるのね。で、そこにトトロが出るんですよ。どんなカンジがいいかなあ。あれ？なんかモコモコしたのが横にいる。ってカンジ。で、サツキが見上げたら、ニッと笑う。でもみんないるの気がついてない。みんなは歩いていくんです。通勤の人とか買い物客がね。で、トトロがああ傘をポンって開いて、これあげようか？でもあげない。うそ、あげる。ってカンジで照れながら差し出すわけ。で、サツキがありがとう、ってほほを赤らめてもらうのね。そしたら、アーケード道路の向こうから、ネコバスがダーッと走ってきて、やりやがったよう、やりやがったよう、ってニカーッと笑って、にゅーっと扉を開いて、トトロは乗り込んでしまうのね。ホモカ。知らん。で、その時は去るんだけどさあ
.....

うん、そうそうその傘はゴミ捨て場にあるボロ傘なんですよ。あんな綺麗な傘じゃないの。だから持って帰ってもみんな不審感を抱かないわけ。で、おかあさんたちに「こんなに遅くまでどこへ行ってたの」って怒られるんだけど、おばあちゃんだけはサツキの味方で、私が悪かったんだよって言って、あとでこっそり、おじいちゃんもこんな傘持ってたよ、って言うん

です。うまいな、ばばあ。このドラマではいい人ですよ。調味料とは……。コシヨウか塩かな。あっ、そうかみりんとかのほうにすればよかった。みりんGO?いや、コシヨウのほうがいいですね。面白い話だなそれ。そんな危険な薬を……。何を言っているんだ貴様は。ただのコシヨウじゃないの。いい加減にして。その時間はもう終わった。やだー、何すんの。とにかくね、そこまでしか考えてないから。はい、今日はもうおしまい。

ヒマなら書け。書くんですか。文字数制限……。1600字だろ。まだ200字しか書いてない。そうなの?そんなんだって。なんか機嫌悪いね蒼紫。なんで蹴ったの?やっぱり自分の小説書いてほしかったの?ちょっとやめてよう。べたべたしないでよう。あのね、だからさあ。

うん。でね、家族連れて近くの田んぼのあるところにピクニックに行くの。お弁当広げて食べるわけ。おかあさんが「いいところねえ」って言って、お父さんが「ああ。ここは開発が進んでいないからな」って言う。で、おばあちゃんも一緒にいるんだけど、木陰で休んでいる。サツキはおばあちゃんとなんかゲームしてる。お手玉かな?お手玉できたらお手玉はい♪ってやつ。おにぎりは三角おにぎりとお丸おにぎりが混在していて、サンドイッチもある。そんな感じ。で、そこでカンタに会うんですよ。あーっ、おまえ学校にいるヤツだーってカンジで。そうそんな感じですね。なんでここで遊んでんだよ。って言ってサツキはむくれる。オレたち働いてんだぞーって言って。バッドミーツです。日曜日ですからね。で、追いかけてこ

して、サツキはなんとか逃げるんだけど、メイが・・・おねえちゃん待ってようって、人質ですか？そーかもしない。そんでメイをぐるぐる巻きにして。あんたね。とにかく愉快な争奪戦をやってもらいます。そんでトトロは？いなくていいですあんなの。そういうときはいないんだよああいうのは。そうね。その時は白い透明なのがいっぱい走って出てくるのがいいな。それで、カンタたちがあれってなって、オレなんでこけてんだ？ってカンジで次々と坂道でこけて、悲惨な状態になる。サツキはそれに最初は気がつかないんだけど、あっ、ってカンジで見えるわけ。なんかいるって。うんそんな感じですね。

で？その日はばばあは？普通に帰るのかな。うん。普通の人だから。サツキにまあまあ、泥だらけだねえって言って、おかあさんがもうこんなに汚してって怒る。そんで楽しかったねえって言って夕暮れの道をみんなで帰って行くんです。いいなあ。そうかな？ありがちだと思うんだけど。チョコちゃんケンちゃんって毎回このパターンだったし。あれそうだったなあ。いったん保存しろ。

そんでトトロが出るのはグリズリーってかんじで出るのがいいです。はいそうですね。カンタがてめえーって走って行って、巨木に衝突する瞬間にトトロが出て「うわっ」となってから衝突する。怖いなトトロ。トトロ貴様はおいしいところだけ・・・。トトロ最初から助けるよ。仕方ないなあ・・・。じゃトトロがサツキと一緒に丸太を転がす。というか、トトロが丸太を転がしてから、小さいやつが出てくる。それでいいです。

ゲド戦記「壊れた腕輪」 1

ヤックルに乗って旅をしているゲド。あるストーンヘンジの遺跡を訪れて、そこにおいてある石のマーキングの呪文を見て、異変に気づく。「失われた魔術の紋章・・・ここでは何が行われているのか。」ゲド、弓をつがえて一発射る。茂みに当たり、そこに人影が動く。浮浪者のような男。ゲド、男に尋ねる。「あなたはここのか？」男「私、ここのか、ないね。」ゲド「言いなさい。ここでは古い魔法が行われている。何をしようというのか。」男「私、何も知らないね。知らないね。」ゲド、男を追って遺跡の穴に近づく。異変のしるしを見て、ゲドは穴の入り口から地下に向かって降りていく。巨大な空洞。男が先に立ってとほとほと水の中を歩いている。鍾乳洞の浅瀬のような、広い空間。その対岸に焚き火が燃えていて、人影がいる。エボシが従者を連れてそこに立っている。エボシ「よくぞまいられた。客人の名は？」ゲド「ハイタカ。」

ゲド戦記「壊れた腕輪」 2

ゲドはエボシと問答をする。エボシ「火は火に。水は水に。どうした？答えなさい。」ゲド「・・・火は火に。水は水に。ここでは、ともに皆が暮らしておられるようですね。」エボシ「われわれの共同体だ。客人、ゆるりと休まれるがよい。」地底の帝国を案内されるゲド。廊下につらなって呪文を唱えて行をする人々の群れに、ゲドは苦い顔をしながら歩いていく。その行き止まりの部屋に案内される。客とはいえ、軟禁状態である。腰の剣をたてて休むゲド。ほどなく天井から刺客の群れが襲ってくる。ゲドは剣で応戦し、天井を走って行って、ひとつの部屋にたどりつく。牢屋である。少女がひとり、手鎖でつな

がれている。ゲド「君は？」少女、敵意のある目をゲドに向ける。テナー「帰れ。ここは、おまえのいる場所じゃない。」ゲド「あなたは何かの儀式のために、ここにつながれているのでは？」テナー「だったらどうだと言うのだ。誰も私を助けることはできない。」ゲド、少女が儀式に引き出されるのを隠れて見ている。少女の首が落とされそうになる瞬間、ゲドは腰の短剣を儀式の最中に投げる。テナーと逃げ出すゲド。二人はアチュアンの墓所の迷宮を、必死で駆け抜ける。やがて断崖のようなところに出る。ゲドが下を見ると、崖の下に、たくさんの竜が飼われていて、うごめいているのが見える。ゲド「これがこの場所の秘密であったのか。」竜は炎を吹き上げて、二人に襲い掛かろうとする。その時、二人の背後から、エボシが迫る。エボシは飛行する布に乗っている。ゲドたちも竜のひとつに乗り込む。激しい追跡劇。やがて、洞窟の出口近くなるが、エボシが追跡しながら声だかに叫ぶ。「そなたの真の名を私は知っている。そなたの名はゲド。」ゲドは答える。エボシの真の名前を呼び、すべての竜の名前を叫ぶ。竜たちがものすごい速さで飛んで現れて、エボシに食いつく。エボシ死亡。ゲドとテナーは明るい外の大地にたどり着く。ゲド「そなたはもう自由だ。港にまで送ろう。」テナー「ハイタカ、ありがとう。」うれしさに肩を抱き合う二人。二人は港町から船に乗り、アチュアンの墓所から離れていく。

千尋 ラストシーン

千尋は銭婆婆のところでは休んでいた。不意に戸口に気配を感じる。戸に風の当たる音がする。外では、ハクが竜の姿を解いて、戸に向かって魔法をかけていた。ハクの差し伸べられた手

の平から、光の玉が浮き上がり、閉められた戸に向かって反応。銭婆婆は実は湯婆婆と同一人物であった。千尋をカヲナシたちみんなでダマしていたのである。カヲナシは、たまたま迷い込んだ珍客であり、結局千尋の味方にはならないのだった。戸をはさんで対峙するハクと湯婆婆。術が破れ、戸が風に開く。駆け出す千尋。そこに懐かしいハクの姿が立っている。「ハク!!!生きていたのね、無事だったのね。」抱き合うハクと千尋。しかし湯婆婆たちはその小屋から姿を消していた。ハク「あれが魔女のやり方だ。」二人はまた油屋に戻る。飛行しているときに、ハクの本当の名前を教える千尋。「そなたが本当の名前を教えてくれたから、私は湯婆婆に勝てるかも知れない。」ハクは千尋と一緒に湯婆婆のもとに向かう。

橋の欄干の上。湯婆婆が豚の群れの前で待っていた。「この中から本当の親を見つけな。でないと、一生、豚のままさ。」あせる千尋。どれが両親かわからず、泣きそうになる。そこへハクの思念が重なる。「落ち着いて・・・私が必ず見抜くから。」湯婆婆はハクをにらみつけるが、ハクのテレパシーは言う。「どれもお父さん・お母さんではない。ナメクジだ。私はもうけて、千尋にウソはつかないから。」千尋、大声で「ナメクジ!!!」と叫ぶ。湯婆婆「なんだって?!おまえ今、親をナメクジと言ったね?!」くわっとした形相になる。ハク、指で魔法を描く。「変われ!!!」ハクが豚をナメクジに変えるが、それはポンポンと、はじめに千尋の両親が食べていた食べ物の皿にかわるがわる変わる。両親が食べていたのは、ゲテモノの妖怪だったのだ。悲鳴をあげる千尋。その千尋の腕を取り、ハクは駆け出す。湯婆婆「お待ち!!お待ち!!!」坊や仲間の妖怪た

ちと一緒に、ハクと千尋を追いかけ始める。

ハクと千尋は豚舎の中に入り、その一番奥の牢屋に入れられて鎖につながれている、両親の豚を助け出す。その牢屋の鎖の鍵は、ハクが湯婆婆のハンコに隠してあったのを盗み出していたのだ。しかし両親の豚は勝手に走り出してしまふ。「待って、お父さん、おかあさん」千尋とハクは、時計台に向かって逃げ出す。豚が先を走っている。だが、最初に船がついた岸の前に行くと、ハクは千尋に告げる。「川がない。私はこの先には行けない。行くんだ、君ひとりで・・・決して後ろを振り返ってはダメだよ。」千尋「きっとまた会える?! きっと、きっと・・・きっとよ!!!」ハクと涙の別れ。千尋、草原を走り出す。その間も湯婆婆のバケモノ軍団は、ハクたちめがけて突進してくる。ハク、湯婆婆たちの攻撃をバリアーで防ぐ。湯婆婆、ハクの首を巨大な爪でつかみ炎を吐きすさまじい形相。「よくも・・・よくもおまえはー!!!! せっかく入ってきた、新鮮な肉を・・・!!!」ハクもすさまじい形相で変化。竜に変わる。本当の名前を得たハクは、失われた川の力を発動させる。時計台におかかって、勢いよく水が噴出し始める。

千尋が走っていくと、両親のもどった姿がそこに立っていた。のんびりと「どうした千尋」と言う父。千尋あせって「へんなおばあさんが、追ってくるから・・・。」と両親に逃げるように言う。時計台を襲う地響き。父「地震か?!」三人は時計台の中を走る。その時、バケモノの群れを食い止めがら、ハク竜が巨大化して地を回転し、血まみれになりながらこっちにやってくる。時計台の天井が崩れ始める。竜は巨大化して、□

から水を吐き、バケモノを食い止めようとする。千尋たちが、最初の出口に出た瞬間、竜が入り口にぶちあたり、大音響とともにすべては掻き消える。千尋たちは最初の入り口に立っている。後ろを振り向いて、また中に確かめに入ろうとする父を止める千尋。「お父さん、今はいっちゃダメー!!!」千尋の声は、トンネルの中をこだまする。

何事もなかったかのように新しい引越し先の家に車で行く千尋たち。夜。新しい子供部屋からは、不思議な出来事のあった黒い森の影が見える。じっと見ている千尋は、机の引き出しに、幼い頃川でひろったすべらかな白い小石をそっとしまう。「ハク。私たちきっとまた会えるよね。私きっとまたハクに会いに行くからね。」千尋の目に、大粒の涙が浮かびこぼれる。エンディングのラスト。川にさらわれた千尋の靴は、夕日の照らす広大な海にゆっくりと帰っていく。<完>

吉祥天女1

音無小夜子が男に犯されたのは、約三歳のときだった。小夜子はその男を、実ははっきりと知らない形で殺してしまった。たしか、誰かにはさみを握るように言われたような記憶がある。そこまでは覚えている。しかしそこから男が死んでいる場面までがどうしてもつながらない。幼い頃の記憶はあやふやである。叶小夜子の場合は、はっきりと覚えているのか。しかし音無小夜子の場合にはそれはない。そういうケースもあるということ、書いてみようかと思う。

小夜子は自分では処女のつもりである。少なくともそう思っ

ている。周囲の家族もそういう風に扱う。小夜子の家庭はわりと大きくて裕福な家である。親戚も多い。母親はまさに、母の鏡のような女である。小夜子も母のようになりたいと思っている。小夜子の親戚のひとりで、やさしい少年に雪正がいた。小夜子におはじき遊びなどをして、遊んでくれる。不思議なお兄ちゃんね、と母は小夜子に言う。でもそのあと、女の子と遊ぶなんて・・・という風に言う。でもあの人はいいいおにいちゃんよ。だっていい人なんだもの。小夜子はそう思っていた。そのころの小夜子の髪型はまだおかつぱだった。女の子はおかつぱ頭がいいと父親も言うのでそうしていた。しかし小学校六年の頃、いろいろ言われるようになった。あいつ、まだおかつぱ頭なんだぜ。男の子にそう言われるのだ。なんで？私は違うから？ひょっとして私のことがみんなにはわかるの？何人かクラスの女子はいろいろな髪型をするようになっていた。いや、幼い頃からすでにそうだったはずなのだが、小夜子はそれに気づくのが遅かったようだ。それで、夕食の時間におそろおそろ、父親に、髪の手伸ばしたいんだけど・・・と小声で言った。父親は聞こえないふりをした。何回かそんなことがあった。あるとき、母親が意を決したように、髪の手ちょっと伸ばしてあげていいかしら、と父に言った。父はようやくうなずいたようだった。髪の手伸ばしていいんだ。小夜子の気持ちは舞い上がるようだった。平安時代のお姫様かあ。いいなあ。と小夜子はその日有頂天だった。

それから少したって、肩の下ぐらいまでの長さになった。ロングヘアは手入れが大変だ。父が髪の手伸ばした。まったく猫の手みたいだと文句を言う。よくあるケースだが、

ここで雪正が登場する。ある日久し振りに訪ねてきた雪正の心ない一言が小夜子の心を傷つけた。前のほうがよかったかもな。なんでそんなこと言うの。ひどい。そのころ雪正はもう大学生だった。二人の間には年齢差がある。

吉祥天女2

ここではっきり言っておくが、小夜子はもともと晩生の女の子である。よく同級生の男子からいじめられる。暗いと言われるのである。一番その昔の記憶は、幼稚園の頃である。親戚の二人の小さな男の子だった。ばたばたばた、っと走ってきて、何かよからぬことを小夜子に言った。しかし小夜子はそれを覚えてない。ただなんとなくいやだったことだけしか思い出せない。しかしそのころの雪正は違った。そういう風に自分を絶対に扱わなかった。小夜子は自信を持ってそれを言い切れる。そんな気がする。それは確かなのだが、最近の雪正は違うみたいだ。部活、やってるの？うん。やっぱりブルマー？え、そうだけど……。それ少しがんばってみて。少しだけでいいよ。なんだろうあの人……。昔と態度違うなあ。それで一度、雪正の前で、はやりの感じで髪の毛をばさっ、とかきあげて、ね、雪正、これくらいになった、と少しポーズを決めてみた。昔の雪正だったら、あはははは、と明るく笑ったものだが、なんだか雪正は少しぎよ、としてみた。ばさっ、とやったからかなあ。お岩さんだったみたいかも、と自分で思ってみる。きしよい、って感じ？やっぱりカー。と小夜子はベッドでため息をつく。別にいいわよ。雪正に見せたいわけじゃなかったんだから……。

そのあと、案の定小夜子は雪正に犯されたのだった。

吉祥天女3

そのころの雪正は、こざっぱりとした真ん中わけの髪型をしていた。小夜子はひそかに私だけの王子様と呼んでいた。誰にも私と雪正の秘密はわかんないんだから。だって二人だけで遊んでたもん。でも・・・ただのおはじきだったけど・・・
・。でもそれでよかったんだもん。だから、その犯されたときの記憶は最悪の記憶だった。おにいちゃん、って呼んでみてくれ。なにそれ？と小夜子は思った。そんなのいやー!!!! 親戚だから？それもいや。そのあとわかったように、大人になれたじゃないか、と雪正は言った。すべてが小夜子の思っていたのと違った。だって・・・最後に結婚式で・・・。なんで違うの？こんなのいや。小夜子の頭の上で幼い頃の記憶がぐるぐるとかけめぐる。あの男は私を汚した。なんでこんな文句が頭に浮かぶの。いやよ。あの男って雪正じゃない。自分でもわけのわからない結論しか出せない。だからそれは最初の男で？そうだけど。でもなんか・・・。結局みんなおんなじなのかあ？それは私が子供だから？この頃から小夜子の目つきは変わったようだ。雪正からメールが届くようになった。「会いたいんだけどさ。」なにそれ？でも・・・会わないと頭痛が最近ひどいような・・・それは雪正と関係しているような気がする小夜子だった。だって明らかに最後に「おにいちゃん」とか言われた。言われたもんね私。なんだあれ。そりゃ気持ちよかった気も少しするけど、私は奴隷か？むかむかしてくる小夜子であった。町で本屋で本を覗いてみる。どの本にも「そして幸せな気持ちに女はなって・・・。」という風に決まって書いて

ある。これ、うそだー!!!特に男性作家の本にそれが多い。爆発する小夜子だった。もうファイヤーって感じだね。ファイヤースターターだよ。雪正のマンションの玄関のベルをそういうことを思いながら押す小夜子だった。「来たよ。よっぽど飢えてんの?」「うん」「うんじゃねー!!!」その時小夜子の頭に激痛が走った。まあまあ落ち着いて?ってことでお決まりのコースは「まず胸をもんでみよう」だった。「すごく大きくなるからさあ。ホルスタインみたいに。」この・・・感じがいや・・・。最近胸が大きいみたい、と言われたことがあった。誰かに・・・そう誰かに・・・じゃなくて女にだろ?それで乳首も黒ずんできたとか言われたんだろ?むかーっとする小夜子だった。なんでこうなの?これが私の運命ってやつ?

吉祥天女4

そのころ小夜子には雪正に比べると軽いのだが、やはりショックな事実がわかったことがあった。どうやら父親が親戚のおばさんとそういう関係らしいのだ。母を差し置いてだ。しかも母はそれを隠しているのだった。自分の母親が小夜子にかわいそうになる。私ってオヤジの血をひいているんだね・・・。自分でもあきれれる小夜子だったが、しかしな、と思うのだった。親父って雪正よりひどいからなあ。というかひどすぎ。ま、じじいになだめるように「ばあさんの若い頃に似てる」とか言われたこともあったが。と小夜子はこのひどい猿山の上であたりを見回すのだった。ま、それほどひどいってことでもないけど・・・芸能人に比べれば・・・と試してみるのだった。でもどーでもいいけどな、と思うのだった。

と思っていた小夜子だったがいきなり雪正にある遠大な計画を打ち明けられた。名づけて不連続殺人事件だ。おまえがそれをやるんだよ。は?何言ってんの。と小夜子は思った。人を殺せ、ですか?冗談じゃない。いやです。昔やっていやだったから。しかし小夜子に家系図を見せて、この坊主とこの坊主が肝だから、こいつらを落とせよ、と雪正はタバコを吸いながら自分に言うのだった。いやです。それはひょっとして、いやらしいことを……。そうだ。いやです。やれ。いや。小夜子と雪正の押し問答は頭の上で数時間続いた。しばらくそうしてにらみあっていたが、突然雪正の意識が襲いかかるように自分に言った。金がかかっているんだよ。結局それか?!と小夜子が爆発したその瞬間、部屋の電気がショートして消えた。できたな、ファイヤー。やればできるじゃないか?と、雪正は自慢げに言うのだった。そして肩をたたいて言うのだった。俺も能力者のひとりだからさ。は?いややっぱりそうだったのかと小夜子は思うのだった。雪正もなんかやってよ。オレ?なんでオレが男に手を出すの?おまえがやるんだよ。俺はオレで忙しいからさ。なにそれ?いや、ヤツらもきつといやがるし。そういうヤツだし。暁くんと遼くん?そりゃなんかあの二人いやだったけど……。うん、あいつらAKIRAだからしめねえと。あれにもそんな能力が?うーん、あるかも。ま、がんばれよ。雪正。。。。。

吉祥天女5

小夜子の課題は大きかった。これから転校して、そのいやな不良の親戚に会うの?いやだよ。そんなの。甘えるな。授業中も雪正からの嫌な連絡が入る。小夜子はいらいらする。

ちょっと中間試験中なんだからねっ。もうなんにも言わないでくれるっ!携帯、切るからさっ。しかし小夜子の点数はそのころから少しずつあがった。ふふふ、透視能力にも目覚めたか。雪正っ。私がカンニングしたって言うのっ。人に言ってもいいことと悪いことがあります。こういうことを言いかけると、雪正は一方的にその連絡を切るのだった。小夜子と雪正とのすれ違いがはじまった。あるとき会ったとき、小夜子の心臓が止まることがあった。なにその髪型?似合ってない上に暁くんと一緒に?部屋のドアを開けた瞬間、小夜子の意識は総毛だった。タクシードライバーのモヒカン刈かっ。ヤクザそのものじゃんかっ。なんだと。おまえのこれから会う男に会いやすいように、俺も変えてみただけだ。慣れるよ。その瞬間、頭の上の北条早雲という武将の名前がひらめいた。ハゲオヤジは今すぐはげろっ!!雪正の横のガラス瓶が破裂したようだ。しかし雪正は毛ほども何も感じなかったようだ。そしてわかったように小夜子に言うのだった。ま、今はそんなオレたちはモラトリアムな時代なんだよ。おまえはモラトリアムだから。は?あのアニメ?過渡期?それに何の意味があんの?うるさい。雪正……もういい。私もう一人でやるから。でもなんでそうなんの。私たちなんでそうなんの……。ドアを乱暴に閉めると、少女マンガのヒロインのように非常階段を駆け下りてみる小夜子だった。ただ息が切れて疲れただけだった。小夜子はもともと運動は苦手なのだ。それから数日後、雪正から一冊の古本が届いた。ああこれ知ってる……和田伸二先生の超能力少女アスカだねー。ふふ……こんなヤツが雪正だったらいいけど……。むやみの広い邸宅の片隅にある、焼却炉に小夜子はその本を放り込んだ。私にはこんな時代は終わったんだ。もう終っ

たんだよ。だって、いきなり大人の世界にいるよ。なんでなの？小夜子の目から大粒の涙がこぼれる。こんなもの燃えちゃえ。

第一部終了

ダブルオー第一話「俺も飛びたいよ」1

どっかの？地球上のアメリカ軍空軍基地？から、飛び立つガンダムたち。ロックオンとセイエイの機体のほかに数体で、軍事演習をしている場面から。彼等は海中のミサイルポッドを爆撃する訓練を、主に？続けている。ロックオンのそれらしいセリフがはいる。そんで、「よし。いいぞセイエイ。その照準だ。」とか言う。セイエイは黙々と、海中にある二セミサイルポッドを爆撃する訓練を繰り返している。もちろん、海中からもガンダムを狙うダミーのミサイルが繰り返して発射される。セイエイはその危機を回避した感じで、その訓練をなんとか終えて基地に帰還する。

まずこれが第一のシチュエーション。ほかの訓練生の様子もなんとなく出てくる感じ。

二人で基地の空港に降り立っているのが、第二場面。まず演習生たちに何か訓示を示してから、二人の会話に入る。まあロックオンの「セイエイはちょっと残れ。」って感じだと思います。セイエイがちょっとそれで、ピクツとなったら面白いかも知れない。それで二人で、キィィィィィーンと、後ろで普通の航空爆撃機が機体を地上巡回しているようなところで、

会話を始める。ロックオン「セイエイ。今日の調子はよかったぞ。これからもその調子でいけ。」みたいなことを言う。で、そこでうまくつながらないんですけど、突然何か意を決したように、セイエイが、「僕は今日どここの海中にあるミサイルポッドを何個破壊できました。しかしこんなことの繰り返しに、何の意味があるのでしょうか。」と、すらすらと、しかし反抗的な平板な調子で言う。そしたらロックオンが何かとさかに来たようになる。それでまあたぶんちょっと顔をぶつ。そしてロックオンが「セイエイはいい少年だが、すこし反抗的すぎるな。しかしそれがセイエイのよさでもある。」みたいに言う。それで、二人で今度は基地の中を移動して歩いていく。セイエイはちょっと遅れた感じです。その間も航空爆撃機の機体移動は続いている感じです。

まずこれが第二場面です。

ダブルオー第一話「俺も飛びたいよ」2

次に第三場面。二人で格納庫に入っていく。ガンダムの機体が修理されている。なんかいきなり大きな格納庫になってしまったんですけど・・・そんな感じで入っていくのかな。そしてロックオンが「さてここが格納庫だ。君はここの意味をよく知っているかね？」セイエイ「いえ。本当にはよく知りません。教えてください。」そこでロックオンが振り向いて？「ここではもちろんガンダムが修理されている。君の乗る機体もそうだ。彼等は常に忙しくて、時には君の悪口も言う。しかし彼等も君のために疲れている。それをよく考えて、君はこれからも行動したまえ。」で、セイエイが「はい。」と答えて、まあ

いろいろ新型？の機械の説明も入るのかな？たぶんそんな感じだと思います。それでロックオンが「時間だな。では君は持ち場に帰りたまえ。今日の授業は解散。」という感じで別れていく。セイエイが一人取り残される感じです。

で、実はここでセイエイの出番はおそらく終わりなんですよ。書くのが非常につらいです。あとは全部ロックオンの話なんですよねー。まあ書け。はい。

ダブルオー第一話「俺も飛びたいよ」3

第四シチュエーションいってみます・・・。はい。

ロックオンの忙しい毎日ということで、彼はここでは？一訓令生養成官で、階級はそんなに高くない？みたいなナゾな位置づけなので、いきなり司令室には入れてもらえないのです。で、まず通信室みたいなところへ行行って、女と茶ーしばきます。何。女ですかあ？ま、そういうことです。どんな種類の女が知りませんが、かわいい通信レディと楽しい作戦会議をするらしいです。

ロックオンがまず何何の積荷補給の船？の位置はどうなっている？みたいなことを言う。で、この通信レディたち？の中の優秀そうなのが「ここですわ。」みたいなことを言うんです。あー・・・それで・・・？「今この距離ですわ。ちょっと遅れているようですわね。誰かさんのせいかも知れませんわね。」と言う。で、ロックオンが「まあまあ。」みたいなことを言う。それでいろいろ考えて、何か要点の船を見つけて、そ

の海上の正確な距離を測るのに、いきなり眼鏡を？かけてそれを見るですよロックオンが。で、通信レディが「その眼鏡似合いませんわよ。」というと、ロックオンが笑顔だけどちょっとムツとしてまあ「君にはおしおきが必要だな。私を笑わないでくれたまえ。」みたいなことを言ってから、去るんです。

まずこれが第四場面です。なんか眼鏡の実習生のガンダムパイロットが怒っていますけど……そういうことでした。すみませーん……。名前忘れたけど、ガブリエルの子だね。うん……。悪いと思っています……。はい……。

ダブルオー第一話「俺も飛びたいよ」4

さて、ここまで楽しい日常でしたが、何か次は鬼の修行道場なんですよ。お、おそろくな。

第五シチュエーション。ロックオンがいろいろまあこの間に次の回の伏線？みたいな芝居があったあとで、この基地の作戦司令室に呼ばれるんです。そんでなんかいろいろはげちゃ瓶の群れが計算している。そんでお決まりの、「訓練生の仕上がりはどうなっているのかね!!!」ってのはげちゃ瓶がわけがわからなくなってるわめくんです。で、ロックオンが「予定通りです。」って答える。そしたら何か？いきなりそんなヤツがいるのか？って感じですけど、カンジエルマン殿下か明治天皇みたいな責任者の人が立ち上がって、「笑うな!!!」って一喝するんですよ、ロックオンを。はあ。それでもロックオンは必死で笑顔を作っている感じなんです。はあ。で、いろいろ説教を聴かされるというシーンです。はあ。で、いきなり暗くなって

ロックオンはその小さな？作戦司令室を立ち去る。

まあそんなところですよ。

それで第六シーン。基地から離れた場所にある？しかし一般市民の使う空港です。結構大きな空港だと思います。そこでロックオンは変装？して？しかしパイロットスーツのままのほうがいいような気もしたり・・・まあとにかくある男から茶色の封筒を受け取るんですよ。「どうも」って感じで。それで中身を確認してから、また不機嫌になる。まあスパイもやらされているんです。それで、その空港のはずれの公園みたいな鉄棒のあるところに行って、タバコを取り出して一服するんです。後ろに巨大エアバスみたいなものが発着を繰り返しているところです。場面はもちろん夜。それでライターの花が風にあおられてなかなかつかない。あの「カリオストロの城」のルパンみたいなね。三度目ぐらいで、やっとなつかない感じ。それでほーっとなってタバコを吸う。そこで一言、夜空を見上げて言う、「オレも飛びたいよ。」

まあそのとき、セイエイもほんやり空を眺めているのを出してもいいかも知れませんがね。

以上です。

ダブルオー 第一話「俺も飛びたいよ」5

場面はいきなり、あの王女さまの一行です。エアバスかボーイングか知らないけど、ああいうのとおつきの侍従のおばさん

約一名と乗っていらっしやいます。まあたぶんロイヤルクラスかな？でもあまり派手でない機内です。エコノミークラスとあまり変わらないような空間です。そこで地図を広げて侍従から説明を受けている。「次はここを訪問していただきます。ここは非常に変わった国ですから・・・。」という、王女の女の子が「わかっております。」と答える。

まず、この一行ですけど、護衛の数がなぜか少ない感じで。それでその国の人たちと会うんですけど、最初は普通の黒服軍団です。で、王女が歩いて行って、「仕方がないので参りました。ここも窮状をきわめてらっしやいますから・・・。」みたいに言う。ところが横の侍従がその言葉をたしなめる。「仕方がないので、ではありません。」と言う。ここで王女が大きく一礼をする。なんかそんな呼吸の二人です。で、黒服が「なんでも礼をすればいいと思っているな。まあ、乗ってもらおうか。」ということで、タイヤの大きななあ軍用護送車に乗るんです。4人ぐらいですか？そう、それがいいね。

いったん保存だな。

そこでまあねちねちと嫌味な空間があるんですが、とにかく暑い国なので、いろいろ言われるみたいです。まあ「君の服は暑苦しいなあ。」みたいな具合です。じりじりそんな時間がたつのはあんまりなので、王女がなんとなく空を見上げるとこるでいったんカットしてください。

それで砂漠の中にテントがあって、あの手塚の作った一番？

嫌味なキャラの一人の黒目がねの太った将軍が座っているんです。なんか酒瓶がいっぱい置いてある。ひよとしてサイターの一種かも知れません。そう・・・彼にとってはです・・・

そこでこの人が「は。暑いなあここは。君も脱がなか。」とかうっかり口をすべらせて、王女が激しい気迫で、にらみつける瞬間がたぶんあります。とにかくまあそんな感じで、「わたくしの国は涼しいので、こういう服を着ております。」って言うんです。そこでこの黒めがねがとにかく「これあげるから、言うことを聞け」みたいなことを言って、王女が「じゃ、もらいますけど、知りませんからね。」みたいな会話がある。そこで黒めがねが「帰ったか。これがあの国に渡るとえらいことになるぞ。あの女それを知らんからな・・・ふふふふふ。」とか言ってなんか一本機嫌よくあげてください。まあそれがガンダム的な会話で続くといいね。はい。

そこで最後？のシチュエーション。王女、タラップで飛行機に登って行くとき、侍従に一言。「これをあちらへ・・・。」侍従「よろしいのですか？」王女「はい。およそわたくしの国には、必要ありませんから・・・。」それでタラップをのぼっていく。ここでなぜか、王女はニュータイプ能力に目覚めたのか、侍従の心の声が聞こえるんです。「まったく、行商だわよ、行商！！！」って口汚くののしる声が聞こえるんです。それをつらいなあ、と思う顔で飛行機の椅子に座る。そこでだんだん地平線が夕焼けになっていくのが窓から見える。それをぼうっと見ている場面で、私の場合は「終」です。

毛虫のポニョ1

刃止め車庫のあたり？その近くにポニョが墜落。でもまだ生きててなんとかフェンスにしがみついている。→ポニョ移動
ビル街 サラリーマンの間を歩いていく

ま、NECの本社の近くかな。とにかく品川外環部から赤坂方面のところかな。そんな感じですね。で、ポニョとプニョって二匹です。ポニョがイケメンでプニョがボケみたいな感じ。ま、「オンユアマーク」のあれだと思ってね。それで2人が突っ込み漫才をしながら移動。

それで信号機のところで、車に乗っただけで、飛ばされる。風が車の反動で。それで、今度は引越しのトラックにしがみつく。そこで一息入れるんだけど、セリフで「がんばってください」って東京弁で軽く言われる。その引越しの儀式ということで。それでなんとか、始めに会った女の子の家に行くという感じかな。

ま、あのアメリカのトイストーリーそっくりですよ。でもこのパターン昔見たアニメによくあったから。あったねえ・・・
・赤塚先生のアニメとかそんな話ばかりだった。確かそうです。ああ、最初公園でかわいい犬を連れた女の子に会うんですよ。それで「虫さんこれ食べる？虫さんだから食べない？」とかクッキーとかパテトチップとか渡されるんだけど、まごまごしているうちに女の子は「今日はピアノの練習の日だったな」とか行って犬とお菓子を持って向こうに行ってしまうんです。

毛虫のポニョ2

茶色のセントパナード犬によく似たふさふさした毛並みの大型犬。でもハイジとちがって、一色で茶色かな。ま、ちょっとそんな高級犬にも見えるような犬。で、この犬なんだけど・・・老犬という設定なんだけど、意外と「ワンツ」って感じでよく走る犬がいいな。最初そんな驚かす感じで公園の中に走って入ってくるんです。もちろん女の子が手綱を引いて。で、この犬は最初はしゃべらないんだけど、女の子の家で2匹が定着したらしゃべりだすという感じです。「なんだあんたしゃべれたんだ」って感じでね。

ああそうなんだ。で、まあ普通の公園の場面かなあ。とにかくブランコに乗ってから、ベンチに座ってお菓子を「へへっおやつv」って感じで取り出す。まあそんな感じです。まあすごく賢いという設定の子ではないですよ。でも普通の子です。ただこの子はまあなんというか、思いも寄らないことを言い出すという設定でね。モンスターズインクみたいな感じです。そのやりとりを楽しむという映画かなあ。

最後まで書くの？うん・・・。とにかくなんとか女の子の家にたどりついたら、「ああ、さっきの虫さんかなあ？」とか言われるんだけど、どうだっけ？とにかく居ていいことになるんだけど・・・。あ、そうか。引越しのトラックの引越しの家じゃなくて、ほかの家なんですそこは。で、これからまたよそに移るのと女の子に言われて、2匹が不安になる。ああそうなんですか。うん。確か昔寢床で落語のようなことやられたとき、そうでした。「虫さんここに居てもいいけど、私またお

うち移るんだ……。さよならだね。」とか言われて、庭に離されるんですけど、この2匹は最初にめぐんでもらった菓子の味が忘れられないので、「またあれが食べられなくなるのか？俺たち普通の虫なのかなあ……。」とか言っているんです。

そんでその女の子の旅行カバンにもぐりこんで……。一緒に飛行機に乗ってしまう。そんで見つかって「虫さんだあ」とか女の子が言って母親とかとの家族ドラマが少しあって、とにかく「虫は隠していてね。」と綺麗なスチュワーデスのおねえさんに言われる。そんでもじもじしながら飛行機に乗っているんです。まあそこから物理の問題だったな。こいつらが本当に普通の虫じゃなくて、飛行機の高度があがると、一緒にふわふわ浮き出すんですよ。そんでなんかそこまでやったら……。とか思ったけど、とにかく飛行機の上の部分にまで出てしまう。そこで気圧の流れと格闘するんです。ところが飛行機のパイロットは普通に運転していてね。なんかそこで2匹が大騒ぎをするんですが、それが返っていい結果になったなみたいな変なギャグがはいります。まあコナンのギガントですけどもね。でも軽い虫でやったらどうなるかなあという実験です。

とにかく「俺はっ」とか一言言っただけで押し戻されたり、そんな感じですよ。そんで「俺は機内に帰る!!! うおおおおおおおーっ!!!」って言うところが名場面になると思います。

毛虫のポニョ3

ま、なんとかそういうつらい修行を経て蝶に変態するという

話ですよ。それで女の子の乗った飛行機は北海道か東北かなあ？そんな寒いところに着くんです。それで2匹はさなぎの状態になってカチンコチンになって、あと女の子のお遊戯会で蝶の踊りを舞うというオチです。

まさにバカ映画!!!股間につくとか言われたですけど。お遊戯中の男の子たちの。それで真ん中で女の子が、魔女かなんかの服装で大きく杖を振っているという図が浮かびました。まあ女の子がお母さんに「私今度妖精の役」「はいはい妖精の役ね」とか言われる場面があるんですけど。ああ、そのお遊戯会で?の前段階です。うん。で、そのお母さんはやさしいですけど、終始不機嫌な感じで、まさに母親という感じでしゃべり続けます。劇の中で?うん。とにかく「引越したとたんお遊戯会なんて、もう準備で大変よ。」みたいな感じでしゃべるのかな。たぶんそうですよ。ああそういう映画ですか。そうだね。それが懐かしい感じで、でも現代風で最後までつながっていたらよかったのになあと思います。

グド戦記 別案1

困ったなあ・・・言いにくいんですよね・・・一度にいろんなことは・・・。あの、まずセルムじゃなくてジムシーみたいな気のいいやつを出してほしかったんです。それはアスベルの友達で。はいそうですね。そうですねじゃねーだろっ!! !死ぬがいい!!!顔はアスベルみたいなんだけど・・・そうね。あの中ではラピユタのパズーね。で、パズーとつきあっていくうちに、だんだんアスベルがアシタカみたいになっていくんです。いやそんないい子になんなくていいよ。で

も役どころとしては、ジムシーでしょ？最後テアと馬に乗るんですよ。だったら・・・はいケチャですね。二人で草原を駆け回るね。それはノウシカとアスベルで。だから全員で行けばいいんじゃないですか。コナンのおんなカンジで。いやふたりっきりのほうがいいなー。ふたりっきりのほうがいいなー。それでいいと思うんだなボクは。そうね。草原の途中で、石の道標があって、オレたちはここでお別れだ、って言ってアスベルとバズーが二人で握手して別れるのね。うん・・・・。ノウシカ、いい作品だから言いたくないんです・・・・。原作・・・・。はい・・・・。それは腐海から何リーグぐらいの場所がいいかなあ・・・・。チベットのラサじゃなくて、やっぱりモンゴルみたいな位置のところにしてほしいです。うん。あーいーなーモンゴルの奴ら。あの相撲取りでしょ。いやあいつのことはどうでもいいから。そう、私はあの相撲取りのことはどうでもいいんですけど、そんな場所好きだから。そうだね。腐海もこうして、じよじよになくなっていくのかも知れない・・・・。きつとそうだよ。そんなことを言い合いながら・・・・。

で？ゴローさんに？何か言うの。うん。あの映画ね・・・・。そうねえ。もう原作者が私の原作じゃないって言うと思うんだけど、アレンも竜に変わったほうが良いと思うんです。なぜかそう思うんですよ。それはクモがアレンにあの麻薬を飲ませるでしょ？あんな危険なもの飲ませられて、あの人は大丈夫なのかなっ、て子供が思うでしょ。でもその人は竜になったね。だから子供たちは安心するの。そうだね。そういうオチだと良かったと思います。それに最初二頭の竜が争っていた場面の不安感も、なくなると思うんですよ。あー・・・・。なん

か・・・言いたくないんですけど・・・。こんな事言ったら怒られるかも知れないんだけど、夏に見たポケモンの映画ね。そういうのうまいこと作っていたんですよ。もうツボを心得ているね、ってカンジで。ちょっと涙が出てね。こんな映画で泣くなんて～～って思ったけどもね。は～～。ゴローさん・・・しよげないでください。私だまされまくりですから。はい。こんなにマジメにやっているのに・・・。何がいけなかったと思います？そうね。まず人質たちをクモが移動させている場面が欲しかったです。で？このウサギって男が激しく人質を痛めつける場面が当然必要でしたね。はい。それは、あの戦車で移動する場面だけでなく、最後の城の中です。クモが人質をなんかの実験に使うんですよ。ものすごい作画の手間すがかかると思うんですけど、モブシーンで。そこを、テルーが剣を持って駆けていく。人質たちは・・・そうですねー。寝ていないで騒いでいる状態がいいと思います。そうだ、オレも竜になるぞー、とか言って。で、ゲドがテルーと二人で連携プレイをしながら階段をのぼる。クモとの問答はないほうがいいと思います。原作者が怒ると思うんですけど。いや原作者はいいです。もうあんな女は・・・。あんな一生懸命作ったのに。やっぱり何か言われましたか。そうね、一言言いそうな人ね。ハリポッターの人のことけなしていたし。私もそういうこと言うけど・・・あのね、原作で四巻なんとなく読んでんですけど、テルーじゃなくて、セセラギ姫って女の人がベールをかぶって座っているの読んだとたん、なんか読む気がなくなっただんですよ。なんだこれ？って思って。で、最後だけ読んだらあのテルーも竜になったわ、これでよかったのよ、って言ってゲドとテナーが。これなんかヘンです。そう、ヘンだね。あ

の人ちょっと変わってる人かも・・・って思ったの。「闇の左手」って作品・・・。そうあれはなんかヘンです。続き読めるかなあ。私二巻までしか熱心に読んでないんだけど・・・。三巻なんかよくわかんない。何回も読むんだけど・・・。あー、またなんか悪いこと言っちゃった。ごめん。忘れて。私って舌禍が多いんです。自分ではマトモだと思っているんだけど・・・。あー、またバカなこと投稿しちゃうよ。あー・・・あんな一生懸命作ったものを私もこうしたほうがいいのかって言ったし。

ゲド戦記 別案2

ハジア問題、すごく困るんですよ。これって麻薬でしょ？だからアレンもテルーもアーキペラゴの古き竜の因子を持っている可能性があるかも知れないという設定をセリフに追加すればいいんですけどもね。それだと、人質全員が竜になって、クモをタコなぐりにする場面の説明がつかなくなるんですよ。うん、そんなカンジのほうがいいと思います。あの、ナウシカの蟲の大群にやられるカンジね。＜やしいことですけど、藤崎竜さんがこういう場面を「waqwaq」で描いているんですけど・・・まああんなカンジで・・・。あれ竜だったかな？で、おまえたちも竜になるのだーって、ゲドが最後に杖を振る。ああそうすればいいの。ありがとう蒼紫。やっぱりあなたは頭いいわね。ゲドがそんな魔法使いだと、魔法というのは、自由には使えないものです、とか言う人がいるから・・・。いやそういう人はいいです。で、その時のゲドはちょっとマントで顔が見えない感じで、タメをとってから杖を振る。ああ、ありがちですね。そう、すごくこれありがちなんですよ。サンライズ作

品にはそういうのすごく多いから。そんなカッコつけてるのはジブリじゃないだろうって言う人もいると思うんですけどもね
・・・。

あ、そうそう、藤崎竜さんの問題の場面の絵なんですけど、これダリですね。ダリの絵だね。あの白と黒のボールになんか竜だっと思ったんですけど……。そそそそれ以上は言わなくていいです。は？何言ってんだおまえ。あの……。荒れてるなあ。で、確かもう一人そんな絵を描いていた人がいたような記憶が……。誰だっけ？こういう反転もの描いていた人。いたような、いなかったような……。ああああ、忘れた。で、女の人は白い竜で男の人は黒い竜かな？そんな感じかなあ。人質の竜になる人たちとか、あ、アレンとテルーもそうなんですけど。あ、そうすると最初の場面も白と黒が戦っているのがいいです。色指定が大変だと思うんですけど。特に密集した竜の大群の場面。そうだね。あー、すごい世界だな。はー。でも特撮とかそういうので……。

もののけ姫 別案1

さて、「もののけ姫」ですけど、あのサンの衣装を動かさないままでやる場合という課題をいただきましたので、冒頭部だけなんとか組み立ててみました。

最初に写る場所→私はここらへんのスキー場はあんまり行ったことないんですが、やはり大山ですかね。ただ、私の思い出としては、鳥取とか岡山県境付近の山小屋からはじめたいと思いますね……。

さて、季節は冬の頃。「三寒四温」という言い方があるのですが、そのころだと思います。猛烈な吹雪と、暖かい春先かほとんど夏みたいに感じる太陽光線がある頃だと思います。最初の場面は、猛烈な吹雪です。そこをアシタカが馬に乗って移動している。小さな山小屋がある。まあほとんど「今みたいだ」と思わせる路線が好きな人は、黒く焼いた杉材みたいな材質の壁の小屋です。それではおかしいと思う人は、組み木の山小屋ですね。ま、ここであみだが別れるかも知れません。まあそんな感じですね。。。。。

もののけ姫 別案2

でまあ、その小屋の明りがもれていて、アシタカがやっと避難できたという感じで中に入るんですよ。あんまりその、スパイものみたいなセリフは言わないほうがいいと思います。うん。だから「ありがたい。中に入れていただけるとは。」みたいな感じです。

それであの「味噌が足らん」のあの場面の芝居です。あああの人なのか？じゃなくてその人しかないっていうか。。。。で、そこで「人買いの噂について聞いたことがあるかね」みたいなやりとりがある。それで、まあその時はお互いに、「ああそんな噂がありますね。。。。。」みたいな感じで寝ます。で、朝になったら吹雪がやんでいて、外に出る。先にアシタカが馬で下りて行く感じです。つららが下がっていて、そこを、「ではこれは御代です。」とまで言いそうになるのかなあの人？ま、そんな感じで小屋を後にするんです。

で、降りていく。そのあたりはだいたいそのあたりの自然の風景が写っている。そんでしばらく行ったら、賭場場みたいなところがあって、「よし、その馬が勝つぞ。」「いや俺の馬だ。」みたいなガヤっていつのか、そんな感じの場面があります。そこはアシタカはほんやり見ている感じ、でもあんまりとがめないみたいなそんな感じで通過します。そんでしばらく行ったら穴道湖みたいな湖があるんです。そこにあの、エボシ御前の要塞都市があるんです。でも、門は固く閉ざされていてね。

で、そこでアシタカとサンの最初の出会があります。アシタカがその湖のほとりで、腰の水筒に水を汲もうとする。そしたらサンがばしゃばしゃ顔を洗うんです。で、お互いに「なんだおまえ」みたいな感じで顔を見合わせる。で、サンが「ふ、ふんっ。」って感じで顔のよごよごを短い袖の服で拭く。で、そこでどんなやりとりがあるのかは知りません。オチによって変わってくる感じなんでね……。ただものすごく簡単なオチなんですけど、私が考えたのは。そう、砂金掘りをめぐる人々の争いというだけの話です。

だから「オッコト又シさま」とかそういうのいない方向なんです。はい。

これでいいかな？また楽天チェックが入るかなー……。ああだから、アシタカが乗っているのはやはり、カモシカ種のほうがいいのか？シエルパ？うんそれですね。でもなんか嫌味に見えることもあるし。そうなんだよなあ……。まあ

原案を尊重してシェルパにしますか。そうだね……。それだと山小屋は組み木細工のほうがいいと言い出す人もいるかも知れないし。まさにそんな感じです。

もののけ姫 別案3

まあなんというか……。カモシカは非常に気の荒い動物で、めったに人を背中に乗せないという話は聞いたことがあります。うん、そうだね。そんでまあ、「おばばさま、またカモシカに蹴られてしまいました。」「まあまあわしはこんな具合に蹴られたこともあるから。」「おばばっ。」「死。」みたいなやりとりがしょっちゅうあったんだと思います。まああの自然番組の解説ナレーションが正しいのなら、そうやってたはずだと思う。うん……。

まあ時々その高原地帯の放牧の風景が写つたらいいんじゃないですかね？アシタカの回想場面で。はい……。

そんでまあ、占いの場面もちゃんとあることにしましょうか？しかしそれだとなあ……。その宗教関係はあんまり俺見たくないんですよ。いや正直言って私もそうで……。普通に自然な感じで、「あのあたりが今騒がしくなっているから、レスキュー隊で行こう」みたいなただの会話でいいと思いますけど。で、そのレスキュー部隊はどうなったんですか？たぶん最後に火事場になったときにいよいよ現われる感じで。なんだ普通のドラマじゃねえか。今すぐそれやれ。無理ですよ。もう終わったから。でもな。でもな～っっっ。

もののけ姫 別案4

ああ、長野県の部隊が主にレスキュー隊なんですか？たぶんな……。北海道から来ている部隊ってのはサンなんですか？たぶん……。そんな長距離をそんな動物に乗って？俺にはおよそ想像がつかない……。しかもイノシシまで出てるからなあ。それどんな人たち？知らん。いるんだろうなでもそういうの。うん……。

あの一言っていいですか？ただの恐犬が横にいるだけでいいと思うんですけど。俺もそう思う……。自然になったね。っていうか、あの映画ものすごく「誇張」が多すぎるんじゃないの？たぶんそう。まあ最後、100一匹ワンちゃんみたいな場面があったらいいかも知れませんが。ただ実際に考えたらものすごいと思います。うん。

ああ大量の犬？だからそれなんだけどね……。それを出していいのが悪いのがよくわかんないんです。いややっぱり出さない方向で行ってくれ。うん。

だからまあサンは4匹か5匹ぐらいの犬を連れながら、移動しているだけってことにしておくのか？その案もいろいろ言う人はいるかもなあ……。まあ1匹だけでやるのが、一番賢いと思います。でも無理っぽい感じ。そうなんだよね……。はー……。

まあそんな感じでした。

もののけ姫 別案5

ああだから、北極で遭難したああいう人たち？だからそれなんだよね……。いやもうそれしかないと思いますよ僕も。うん見ましたよ。昔タダで見せてもらえるあのビデオ。大阪の民族学博物館で。あああそこ、なんかイケメン風の人々が多かったですね。なんか実にあの頃はそんな感じでした。はあ。で、それでその「干し肉が食料なのです。」っていうのも見ましたです。で、「氷に穴をあけて魚を釣っているのです。」も見ましたです。でもなんか見ている怖かったですけど。凍死しないんだろうか、この人は……。そんな感じだね……。一緒にいる犬も大変なそんな感じで……。まあみんなで固まって眠ってましたけど。うん……。

こんな服脱いでやるよ？なんかいきなり裸になって、ザッパーンと豪快に穴道湖で泳ぐ女が……。げ、現実には現われないでほしいです。うん……。なんかそれ、あびなすぎるなあ……。そう、にっぼんの女の場合は「濡れ女」になります。まさにそうなるから……。サンちゃんは健康的でいいですねー。ははっ、そうか？やっぱ昼脱がねえとな。その人が穴道湖にいるらしい？なんかいるみたいです……。いるという噂がたえなくてねあそこ。はいはい。

サンとキキの服装について

困ったなあ……。もう洗濯物入れないといけないからさあ。キキはねー……。もしそうなら見た人がロリコンだって怒ると思うんだけど、黒の喪服みたいなカンジのワンピース……。ツーピースにも見える感じのデザイン……。制服にも見える

んだけど・・・蝶ネクタイみたいなリボンが首のところに
いて、細いタックが縦に何本も入っているカンジ。ゴスロリ
と似てるんだけど、ひらひらのレースはあんまりついていない
の。ちょっとさびしいかな。あ、袖から白い・・・難しいな
あ、そんなのアニメで動かせないよね。昔のレース・・・って
いうか、手芸店に売っている一番安いレースのちょっとデザイ
ンの凝ったもの。スカートは・・・フレアーでなくて、ブ
リーツね。なんていうのかな？三つに分かれているやつ。靴
は、うーん・・・運動性がまったくないんだけど、黒の革
靴かな。あよばれとか七五三にはく奴。なんだこれ、七五三
ファッションじゃん。ここまで書いてがっくりきたよ。ああそ
うね、箒に乗るんだから、テニスパンツをはいてもらいます。
丸見えになったら困るなこのデザインは。追加・あ、そうだも
う考えた人いると思うけど、ペチコート？かあの「紅の豚」の
昔のかぼちゃパンツはくんなら、黒の長い編み上げシューズ
ね。テニスの時にはくやつ。いやいやもういいですよ、よくわ
かりました。「はいからさん」の紅尾がはいているアレだね。
そうです。ちょっとロンドンパンクファッションです。あは
は。黒じゃないほうがいいね。そうかもね。うーん迷うねこれ
は。そうだね。

あ、サンですか？サンねえ・・・昔国立の民博に飾っ
てあるやつじゃないとか書いたことがあるんだけど・・・や
はり西アジアか南洋あたりかなあ・・・。生地は麻ね。だ
からやっぱり紫はダメ。褐色色ね。腕には黒のさしずみ。二重
に入っているカンジ。片腕だけのほうがいいかな。顔にはあん
まりさしずみ入れたくないなあ・・・。どうしても入れると

したら、封神のナタクの頼みみたいなデザイン。あ、腕のさしずみは薄い色で。真っ黒はダメ。紺色で透明感があるやつ。こういうの、ポンズとかすごくうまく色指定するんだけど。で、服のすそのところに幾何学模様か、オレンジ色か茶褐色で入っている。そうねえ・・・連続した模様で縦。それは一本。何本も入れないほうがいいわ。そうね、おでんのこんにゃくの田楽の形ね。腕輪は・・・あったほうがいいのかなあ。私はないほうがいいのかも、とも思うんだけど。あ、イヤリングの大きな貝はあれでいいと思う。でね、頭の輪っかは、仏像の頭についてるやつみたいな。真ん中に宝石は入っていないのがいいな。えーとね、東北の・・・なんか焼きって言うんだけど・・・思い出せない。青森県あたりの青銅の焼き物。その細いやつ。ま。まいりました。こんな女に説教していたんだなあ・・・。そんなことなんて言うの？こんなみんな考えるんじゃないかな。民博見た人は。そうだね。きっと見た人の心のどこかにあるね。

ナディア改編案1

おはようございます。今日は予測されたように、左周り航路です？いやねえ、検索してもぐぐる紳士の機嫌が悪くて？はっきり教えてくれないんです。ナディアはスエズですか？パナマですか？とりあえず2クール予定のパナマ航路をよるよるとたどってみることにしました。

まずお船はフランスから出港します。左周りですか？とにかく大西洋に出てください。その前に旧劇場版おっと、旧オープニングの絵で、全員パツと振り向くんですが、なぜか一斉に

こっちを見てニヤッとすごい悪人笑いを決めています。なんか決めきめって感じで決めてください。全員おそらくこの世のものとも思えない顔つきで。それで時々ものすごいアップになって、いきなり「大丈夫よ〜っ!!!!」「心配ないわ〜っっっ!!!!」「でも大丈夫なのよ〜っっ!!!」ともものすごい大アップでニコニコ笑って覗きこんでじらしながら、最後は後ろ見ずにばーっとなら姿で全員で逃げてください。それが新オープニングです。

まあいったん保存です。はい。ひょっこりひょうたん島は話が長くなりそうですからね。ええ。

ナディア改編案2

まずアトランティス大陸です。でもこのあたりはなんか昔ものすごいものがぶつかったのか、よくわからないんですが、島があんまりないんですよ。どうしよう。岸壁の母?うん、あのジブラルタル海峡じゃなくて、アフリカ海岸?のあたりで、ナディアが「あのあたりが私のふるさとかなあ」ってぼうっとした調子で言うんですよ。まあのだかな南洋航路のはじめです。そしたらエレクトラさんが後ろから近づいて、「心配ないわ。でも、あそこじゃないのよ!!!」って感じで言うんですよ。そこは「あそこじゃない」ってところが、ものすごく強烈な感じで言ってください。たぶん指先の形は、ハテナです。それで三分間ぐらい?花の舞い狂っている感じで?後ろでなんか変な曲芸師が踊っている感じで言ってください。

さて、サルガッソーはどうする?うん。簡単だねここ。とにかくサルガッソーのあたりで下から変な藻がいっぱい出てき

て、ノーチラス号がえらいことになるんです。で、そこを4方向からぐいぐい攻められるんですけど、なんとか四散いたします。それでノーチラス号はパナマ運河を通れるサイズなんですよ。まあそういうことでした。おわりませす。

ナディア改編案3

いやあもちろん、そりゃ正式に入れたほうがいいですね。でもパナマサイズも言ったほうが面白いんです。そうそう。で、そのうちこの運河も大きくなるから、というようなことをエレクトラさんが言って、それでなんで水面差があるのかしらねえ、で終ればいいと思う。そう。まあね、小学生なら知っている子は知っていると思うけど、そういう運河だからね。海溝？かな。うん。それでなぜかノーチラス号はもぐって中の様子を見ながら通過するんですよ。そんな感じ。そうだね。うん、なぜかお魚も見えたりしてね。いろんな魚が出たら面白いかも？ちょっとやりすぎと言われるかも？まあそんな感じで。まあ有名な三層構造？のあの説明も入れてね。とにかく最後は浅くなるはずだったから。確か先生の説明はそうだったなあー。でも謎だね。たぶん宇宙空間もああいう感じだと思うけど？そうね。

わかってるじゃないーい。谷口。もう谷村たちの作品への温度差はすごいものがあるな。ええ、あれはすごいです。まあまあ。私もそうだから。そういうのあんまり好きじゃない？なんてね。しかしああいう絵はあんまり私好きじゃないからなあ。お目目がちょっとなんというか……。うん、わかる。

ということで、明るいナディアでいこうね。うん。ま、今回は。しかしオチは壮絶かも？そうねえ。あれも見ようによっては、エヴァみたいになってるっていうか、またそのネタだったからねー。そうなの……。替え玉最後に出ますからね。しかも両体が替え玉なんです。今回は。だからガーゴイルのナディア牢獄の時間がなんだかわからんものになってしまうんですよ。なんかセリフだけばぱっとつながっちゃってね。あれ困ったなあ。

まあしかしやったほうがいいのかなあ。

ナディア改編案4

まず左にまわってインカ帝国のあたりに行きます。その遺跡でドンパチです。ガーゴイルの船は前はすごく大きな戦艦だったんだけど、あいつら北極と南極を航海中？ということで、今度は懐かしい海賊船の船です。敵はパイレーツオブカリビアンかな？愉快的ゴムゴム人間たちが出てくるのかな？まあダッコちゃん人形って黒いビニール人形が昔あったんだけど、その人形も出したほうがいいのかも。そうね。でもあんまりかわいそうなことしないであげてね。そうね。そんな感じかなあ。とにかく、ダッコちゃん人形争奪戦です。そう。ダッコちゃんには不思議な力があるんだ。まあそんな感じで突然神に祈りだして、すごい光学現象が起きるといいです。はい。で、まあ勝利してください。なんか嫌味に思う人もいるかも知れないけどもね。うん。でも正義だから。そうそう。とにかく、あれはなんだったんだ……。ダッコちゃん……。って感じで。そうだね。で、ナディアがいきなりぶりぶりしだして、「あんな

の私じゃない」って言うんです。そこをジャンがまあまあとんだめる。で、突然ナディアがひらめいたわ!!!って言う。「私ここで踊るべきなのよ」って言う。で、パン、って手拍子を打ってね、アースウィンドアンドファイヤーの「レッツグルーヴインナイト」っていう有名なヒット曲を、インカ?帝国の遺跡のピラミッドの上で、踊りまくるんです。最初はあの悪人三人組たちが「よし、踊ろうぜ!!!」って感じで決めだして、最後は乗務員全員でモンキーダンスを踊ってください。それでセリフがあとにつく。「この遺跡の人たちに悪いことしちゃったかも」「まあそうかも。でも楽しかったから、それでいいのよ」って言う。「ナディアってひどいなあ、時々」。ま、そんな感じでテクマクマヤコンのコンパクトで顔の化粧を直している感じでいいかも知れません。で、パチンとふたをしまって、「きっとこれからすばらしい旅がはじまるのよ」って言う。まあそんな感じですけど、後ろの草むらに艦長とエレクトラが隠れていて、なんか「しめしめ」ってやってる。まあそれが第一話?です?。

ナディア改編案5

そうなんす。えっでもナディアでもダッコちゃん出たんじゃないの?なんかあったような気もするんだけどあれは別でしたかね?じゃダメな場合はみやげもののヤシの木人形でいいです。まあ迫力はいろんな意味で半減すると思いますけど。そうですね。まあヤシの木まで何かしたかったらペルーまで回ってみるのも面白いかも。まさにペルーはそんな国であります。いや、でもあのあたりはもうすこし色が白い感じだものね。ええまさにそうなんですよ。まあしかし、あのインカの遺跡の名残

にいけないと。そうね。あのトンガでしたか。違ったか？あの巨石文明の遺跡。モアイ。そうです。それですね。まあ順番でいくとそれです。そんでお決まりですが、やつらはこの巨石を操ってひどいことをします。ガーゴイルがねえ……。うん……。いや実際にの話はやりにくいですよ。でもあの人(も)そういう人だったからね。ええ。そうなんです。とにかく巨石で踏み潰していくんですよ。そんで最後はもぐって圧壊させようとするんです。まあしかしやらないといけないですね。ええ。まあとにかく。出力最大値!!とか「圧壊しそうだ。下からものすごい圧力が加わってきます。」ってみんなできばき作業を進めてください。そんでいきなりざーっと巨石が飛び上がったところを、「今だ。全弾四方面に一斉射撃」です。まあその前にばらけないといけないけどね。そうです。まあそんな感じですね。でもそのモアイはもとにもどっていることにしといてください。ということでした。はい。全員で手間のかかる土木工事現場にいてください。いきなりヘルメットをかぶってます。横でナディアが「ねえ、まだあ〜」っていつもの調子でふくれている。で、ジャンがまあまあ、って感じで「ふーん、やっぱり〇〇さんは作業がうまいなあ」って言う。で、ナディアがカチンときて「あんたわかるの？」って言う。ジャンが「つ、積み木でやったことあるから」って言う。で、ナディアが「なんだあ、積み木かあ」って言うのね。そんな感じですよ。そんでうしろで一番ハンサムなヤツの歯がキラリと光って「いやいや男の労働力ですよ？」って言う。まあそんな感じで第二話終るのかな。あの巨大クレーンカシヨベルレディも最後に出したほうがいいのかもね。「はあ〜い、ナディア。私の場合は」で艦長のセリフが「やめさせろ」です。そうです。

エヴァ終結部1

ということで、とりあえずのオレからの指示。巨人はもう一体出せ。それは加持が「破」の最後でミサトに見せる。セリフは「これがアダム？」ひきつったミサトの笑い。それからその三賢人が三方向から、そのナナイじゃねえな、巨大化したマリアのユイの脳に刺さる。ちょうどMRIの放射線測定機械みたいな方向からだ。ま、そんなところだろうな。じゃねえ。これが正しいんだよ。ただし、占星学的に見て貴様らで正しく修正しろ。そうだよなー。じゃねえんだよ。まず大音響でかかる曲はやはりアスカのときの「ハレルヤコーラス」。これを、マリア誕生のときにかける。老人たちの手で。ゲンドウか冬月かは貴様らで好きなようにクジをひけ。

エヴァ終結部2

で、なんだっけ。とりあえず、ナナイだかマリアだか知らねえその巨人の気分を戻すのに、別の曲を若者らが次々と書ける。まあそれをやりながら、射殺ドラマだ。ゲンドウが一番先の死ぬのがオレとしては理想なんだが、冬月が二番のほうがいいのか？もうなんだかわからんが、とにかくその二人がとこで撃ち合いをして死ぬ。これは決定している。ミサトがゲンドウを狙って照準を定めるのか？それともリツコか。とにかくこの二人の女のどちらかに「ゲンドウ立つ」をやってもらう感じだ。しかし最後に加持が現われて、まあオレとしてはゲンドウを打ちたいんだが、冬月かゲンドウかのどちらかを射殺する。女を助けるためにだ。まあすごく簡単な「三人撃ち」というらしいが、その手順でやってくれ。頼む。

エヴァ終結部3

ええっと、ナナイだかマリアだか知らん巨人の顔を、リリスの綾波に戻す曲は、賛美歌、プロテスタントの曲らしいが、いわゆるポピュラーミュージックな曲だ。まず賛美歌第何番詠唱。「もーろびとこぞーリーてー・つたーえまつれー」この曲だが、あまり少年合唱団みたいな感じの曲はかけるな。普通の、「第九合唱」の普通のおばはんかおじはんたちが知らんが、そんな感じの雑な感じの合唱にしる。つまり、歌っている男女の人数の数は半々だ。

エヴァ終結部4

さて、次はお待ちかね？らしいウィーン少年合唱団の歌だ。まあこの手の曲はほんとうにこの女の子も好きじゃないみたいなんだよな。仕方ねえだろ、でもおまたちこの曲だってことでわかりあってんだろ？まあそうなんだよ。なんだそのリング手玉にとってんのは。ま。私も好きだったからさ。うん。今どうしても最後にかかる曲のメロディーが思い出せないんだよ。まあそんな気分ってとこです。はい。やってくれ。

まず「ノエル」大合唱。「ノエル・ノーエール・ひつじかいたちが。ノエル・ノーエール」まずこれが一番。次に「みつかいこぞりて・いざきてまつれ・」かあと知らん。ま、そんな感じで三曲もかけるのか。なんかそのほうがいいのかな。パッときりかわっていららっと全員ですりゃいいんだよ。そうだね。あは、そんな感じ。そんで最後は「銀河鉄道の夜」で流れるあの曲で締め。ただし、その切り替わった曲たちとは、はっきり違う感じで最後にかかる。

ダメだ。その「銀河鉄道の夜」でかかる曲が今どうしても思い出せない。ははっ。そんな感じですね。なんだかグンドウかなんか知らんもんがにまあ、って笑ってるな。「主はうるわしー・なんとかのきみー」みたいな感じの曲だったはずだ。とにかく平板な曲だ。

エヴァ終結部5

ラストシーン。新しく巨大なマリアの子宮から帝王切開で生まれた、弱弱しく飛ぶ？新ミカエル機を中心に、すべての使途エヴァンゲリオンが輪になって上昇し、宇宙に向かって飛び出していく。ただし、二体のエヴァンゲリオンだけ、地球に残る。それは初号機と、バルディエルの五号機である。二体は、中のパイロットを救うために曲芸のようなことをする。ほかのパイロットのエントリープラグは自動的に抜けたのに、その二体だけは抜けなかったからだ。その時初号機に乗っているのはレイ、バルディエルにはシンジが乗っている。巨大なマリアは、子宮口を修復し、片手をささげ持った形の左の肋骨も自己修復してリリスの顔になって、翼が生えてゆっくりと宇宙に飛び立つ。マリアの昇天である。全身の形が現われて、先に向かうのはおそらくリリスである。土星の輪のあたりを地球を見守っている方向のままリリスが静かな笑顔の顔で通過し、そこをリングの形をしたエヴァンゲリオンの群れがゆっくりと回転しながら遠ざかっていく。

クラスの様子。鈴原トウジが大怪我から回復し、シンジとクロスカウンターでなぐりあっている。たぶん夕日の照る運動場。シンジもなぐれるようになったやんけ……。そんな感じ

でまず第一場面。次にざわめく教室の様子。アスカ、レイに言う。「マリアの出産はまだかしら?」「出産するわけないでしょ。」「あ、やっぱりリリス?」「うるさいわね。」といって、つかみあい?のケンカをしている。前におもしろくない感じで新キャラまゆみが座っている。最後の場面。夕日の波打ち際で、まゆみが片足と片目に大怪我をして、しかしその姿勢は両腕に松葉杖がある状態でほうっとした後ろ姿で立っている。赤い波のあの海岸である。しかし、旧劇場版とは違い、夕日が出ている。場所は、地方道路に似た二車線ぐらいの道路、舗装したもの・ガードレールありの、しかも岩場の少しある砂浜に似た場所。「ほんとうのエヴァンゲリオン」という感じで、でたらめな文字で一瞬画面に写る。おそらくネガ反転で。それから黒字の幕で、スタッフロール。最初に二人ほどの成績優秀者?の名前。それからほかのスタッフの名前が出る。曲は最初は単純な三つほどの不狂和音が重なってから、静かなフルツカアンネン?ポルカみたいな曲が、短調と長調の転調を繰り返しながら、ピアノで三分間ほど流れる。最後はやっぱり和音の積み重ねで静かに終る。最後に小さく、ブラックのまま「エヴァンゲリオン・終」。

コードギアス二期改編案1

「さかしま」って名づけたんだけど、誰の小説だったか忘れたなあ。なんかそんな小説あったはずんだけど……。まあね、わかっている人もいると思うけど、逆ギアスものですよこれ。まあテレビ版第一期の続きなら当然そうなるのかなあと思っただけなんですけど、□□?とかいうややこしいのが出てきて、わからんと思って見るのやめちゃったんで。とりあえず

□□が出ないバージョンですこれは。

第一期の最終話の続きから始まる。対決するルルーシュとスザク。相打ちに近いのだが、ルルーシュがからくも勝って逃走に成功する場面から始まる。CCは2人とも死ぬと思っていたので、開口一番「生きていたとはな。」だった。

CC「貴様のギアスは今不安定になっている。これをかける。」

と、サングラスをルルーシュに渡す。

ルルーシュ「まるでマオみたいだな。」

CC「そうだな。あれもそうだった。不思議とギアスを与えられた者は大半そうなるようだ。」

CCの胸倉をつかむルルーシュ。

ルルーシュ「貴様・・・これは一体どういうことだ？なぜギアスが暴走を始めて、俺の思ったとおりにならない？」

CC「それは貴様の本当の心の声を、ギアスが読み取るからだ。それがギアスの本当の力。」

ルルーシュ「ばかな?!」

CC「信じないのか？まあいい。ギアスが暴走を始めると、貴様は世界に対して今度は奴隷になる。王ではなくて、奴隷にだ。貴様の思っているのと逆のことを、今度は世界がはじめる。」

ルルーシュ「ごめんだな。そんな世界は。責任をとれ。」

CC「ならば私に対しても責任をとってもらいたい。ルルーシュ、おまえは恋多き男だ。見ていてそれはよくわかった。私もおまえという男に恋をした。一目ぼれというのは、本当にあ

るのだな。」

ルルーシュ「ふざけるな。貴様、なんとかしろ。俺をこんな体に・・・。」

CC「わかった、ルルーシュ。これを飲むがいい。錠剤だ。ギアスの暴走を一時的に食い止める働きがある。錠剤一錠で三時間。二錠で六時間。」

瓶を渡そうとして、CCは突き飛ばされる。

ルルーシュ「最初からそれをわかっているが・・・！」

CC「私はあの時神の声を聞いた気がしたのだ。貴様にギアスを与えるべきだと。」

ルルーシュ「貴様のおしゃべりは聞きたくない。貴様の本当の名とやらを聞いた気がしたが、それもおそらく嘘だな？」

CC「何を言う。あれは本当のことだ。」

ルルーシュ「うるさい。しばらく貴様の顔は見たくない。ユフィがあんな形で死ななければならなかったのも、みんな貴様のせいだっ。」

瓶だけ受け取って、CCを置き去りにしてどこかに行くルルーシュ。

第一幕・完

コードギアス二期改編案2

まあね、こういう具合に初めて欲しかったけど、あれ、そうならなかったしい・・・。ミサトさんがなんか言ってる。だから私もそう思うわけよー。あれもう失敗失敗。ミサトさん乗り乗りだなあ・・・。ま、私もあとこれは真ん中と最後しか考え

てないんで・・・。

とにかくルルーシュはひとりぼっちの状態から、カレンたちを一人ずつ、一人一話ぐらいかけて再組織していくわけです。いきなり集めるとしても烏合の衆で失敗したり裏切られてしまったりします。その中で、スザク君のほうはルルーシュのオヤジに「ういやつ」ということで取り立てられて、なんか騎士団を最初から組織していて、追いつめていくわけです。ま、王道ですね。うん。そんでまややこしいんだけど、最初からナナリーがネオイレプンの宗主としてお飾りに仕立てあげられていて、スザクはその護衛ですよ。ひとつ名場面を考えています。ナナリーが人民の前で、袋叩きになりそうになるんです。そこへルルーシュがサングラスをはずして物陰から一言。「ナナリー、おまえは王になってはならない。」ってぼそっとうんです。そしたらそこにいる人民たち全員が、「ナナリーさまっ、最高ですっっ！！！」ってなるんです。で、CCが見ている「今のはおまえの本心か？ずいぶん逆ギアスもうまくなってきたじゃないか。」って言う。ルルーシュがいつになくマジで「俺は妹には危ない目にあってほしくない。ギアスの効力もそろそろ切れてきたようだ。」って言うんです。

ま、そんな感じで。うんうん。

コードギアス二期改編案3

で最終回ですけど、ナナリーが当然一度死にます。ガオガイガーとまったく同じ終わり方ですよ。ナディアとかもそうですが。うん。とにかく、オヤジ成敗には成功するんですけど、ナ

ナリーも巻き添えで死ぬんです。

CC「おまえのギアスの力が大きすぎたのだ。」

とか言うんですけど。うん、いわゆるひとつのパターンなんですけど。うん。

それで、ルルーシュが「俺がたった一人の妹の死を願っていたはずはない・・・確かにナナリーの存在は俺にとっては負担だったことが多かった。俺の邪魔ばかりしていた・・・でもそうじゃない。俺は断じてそんな願いは・・・。」とか言うんですよ。まあ兄弟ものの宿命みたいな話ですけど。うん。

で？

CCが突然「わかった。こうしよう。」とか言うんです。「おまえが一番今思っているギアスはそれだな？しかとそうだな？」ルルーシュ「そうだ。俺は妹を愛しているっ。生き返らせてくれっ。」とか叫ぶんです。CC「ほかの人間の存在を否定するのか？」ルルーシュ「そうじゃないが・・・俺にとってはそうかも知れない。ナナリーだけがこんな風に死んでいいはずはないっ！！！」CC笑って「おまえとの契約は今切れたようだ。私の願い、それは・・・。」ルルーシュ「おまえの願い？！」とか言ったとたんCCの姿が消えていって、光の物体がナナリーに吸い込まれるんですよ。ありがとうございます。それでナナリーは生き返って足も治って、「おにいちゃん・・・私立てるのよ・・・。」とか言うんだけど、CCはいないんです。うん。それでどこかの海岸でスザクと和解みたいな会話をルルーシュがする。スザク「人が人に対して言える本当のことは、本当に少ない。」とか言うんですけどね。で、ルルーシュ

は最後、「ズザクおまえの言うことは認めよう。しかし人は人として生きただけ、だれもが生存という闘争を背負って生きている。私はこれからも人として生きるつもりだ。この地上の、今のところはひとまずのかりそめの王としてな。それが、王として生まれた者の務めだ。」ってセリフで、なんか止め絵になって、あの最初のエンディングの♪シャバダ・シャバダの曲が流れて「終」です。

あっそうか、ルルーシュがそこまで取り乱すということは、ナナリーを殺したのはルルーシュの親父ですね。ひどいなこれは、エヴァのゲンドウどころじゃねえな……。

アニメ改変案集2

著 者：おだまきかこ

印刷・製本：欧文印刷株式会社

<http://www.obun.jp/>



200808030050-035-000000

背表紙は左のようになります。
半角英数字を使用している場合は**半角英数字だけ90度回転**した状態になります。
なお製本サービスをご利用の場合、総ページ数が一定のページ数（モノクロは121ページ、カラーは141ページ）に達しない場合は背表紙に文字は入りません。
ご承知おきください。

英数字が90度回転しないようにするには....

お申し込み画面の「書籍のタイトル」と「著者名」を入力するときに全角文字で入力してください。

<英数字を半角で入力した場合>

子育て日記 VOL. 2

▼
子育て日記 VOL. 2

<英数字を全角で入力した場合>

子育て日記 VOL. 2

▼
子育て日記 VOL. 2